番号	年	執筆者	項目	記載内容
5-26-103	1995 (H7)	福武勝幸 （東京医科大学臨床病理科教授）	血友病	☆補充療法の項、その他の凝固因子欠乏症の項にフィブリノゲン使用の記述なし
5-26-104	1995 (H7)	丸山征郎 （鹿児島大学臨床検査学教授）	播種性血管内凝固症候群	☆補充療法の項に、フィブリノゲン使用の記述なし
5-26-105	1995 (H7)	雨宮章 （聖マリアンナ医科大学産婦人科教授）	常位胎盤早期剥離	☆DIC の治療の項に、補充療法としてフィブリンゲンを使用するという記述はない

また、下表に産科領域における『今日の治療指針』のまとめを示す。

図表 5- 27　産科領域における『今日の治療指針』の記述

番号	年	著者	所属	フィブリノゲン投与推奨	フィブリノゲン投与量	肝炎感染の記述
5-27-1	1961(S36)	小川玄一	北海道大学教授	×		×
5-27-2	1966(S41)	中津幸男	同愛記念病院	○	4g （最大 10g）	×
5-27-3	1966(S41)	品川信良	弘前大学教授	○	5g	×
5-27-4	1967(S42)	古谷博	東京大学助教授	○	2-4g （最大 10g）	×
5-27-5	1968(S43)	小畑英介	浜田病院	○		×
5-27-6	1968(S43)	九嶋勝司	東北大学教授	○	2-6g	×
5-27-7	1968(S43)	中嶋唯夫	日本医科大学講師	○	1g	×
5-27-8	1969(S44)	小畑英介	浜田病院	○	3g 以上	×
5-27-9	1969(S44)	竹村喬	大阪大学講師	○	1-4g	×
5-27-10	1970(S45)	真木正博	弘前大学助教授	○	2-5g	×
5-27-11	1971 (S46)	大川公康	日本医科大学教授	○	1g ずつ	×
5-27-12	1971 (S46)	林基之	東邦大学教授	○		×
5-27-13	1971 (S46)	鈴村正勝	日本医科大学教授	○		×
5-27-14	1972(S47)	白川光一	香椎病院	○		×
5-27-15	1972 (S47)	川上博	東京女子医科大学教授	○	3g（止血しない場合は 1g ずつ追加）	×
5-27-16	1972 (S47)	西村敏雄	京都大学教授	○	4g	×
5-27-17	1973 (S48)	塚田一郎	関東逓信病院	○		×
5-27-18	1973 (S48)	品川信良	弘前大学教授	○	2-5g	×
5-27-19	1973(S48)	藤原幸郎	東京医科大学	○		×
5-27-20	1974(S49)	田中敏晴	井槌病院	○	2-6g	×
5-27-21	1974(S49)	尾島信夫	聖母病院	○		×
5-27-22	1974 (S49)	杉本修	京都大学講師	○	5g 以上	×
5-27-23	1975 (S50)	相馬広明	東京医科大学助教授	○	2-6g	×
5-27-24	1975 (S50)	林基之	東邦大学教授	○	2.5-10g	×
5-27-25	1976 (S51)	福田透	信州大学助教授	○	1-4g	×
5-27-26	1976 (S51)	福島穣	名古屋保健衛生大学教授	○	4-6g	×
5-27-27	1977 (S52)	西村敏雄	京都大学教授	○	4-8g	×
5-27-28	1977 (S52)	杉本修	大阪医科大学教授	○	3-6g	×
5-27-29	1978 (S53)	福田透	信州大学教授	○	2-6g	×
5-27-30	1978 (S53)	品川信良	弘前大学教授	×		×
5-27-31	1979 (S54)	小畑英介	浜田病院	○	3-6g	×
5-27-32	1979 (S54)	鈴木重統	北海道大学講師	○	2-6g	×